



三到図書館 ニュース

2015年4月発行
No.76

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ ◇学生アルバイト座談会 ◇学生からのメッセージ ◇学生の活動報告
◇読書運動プロジェクト ◇退職教員からのメッセージ ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

図書館を居場所として

基盤教育院長 松田 麻利子

新年度を迎え、この一年の過ごし方にそれぞれの思いを抱いていることと思います。特に新生の皆さんは、高校時代との生活時間の違いに戸惑っている方も多い事でしょう。大学へ入って新しく経験するものの一つに授業と授業の間の「空き時間」があります。どうもこの「空き時間」は歓迎されないもののように、学年が進み比較的時間割の自由がきくようになると、授業を「効率的に」詰めて履修し、大学へ来ない日を作ろうと企てる人が現れますが、これはとてももったいない事だと思います。空き時間というのは、大学生にこそ与えられる特権です。授業と授業の間の100分間、またはそれ以上の時間が、自分の裁量でいかようにも出来るのです。この時間をいかに有意義に過ごすかで、大学生生活が大きく変わってきます。幸い桜美林大学の周りには遊びに行けるような場所がなく、反対に大学の中にはいろいろな経験が出来る場所とチャンスが用意されています。たとえば基盤教育院に関連するものだけでもいろいろあります。ボランティアに興味がある人は、学而館1階のサービスラーニング・センターを訪ねてみてください。スタッフや学生がいろいろなボランティア活動について紹介してくれます。同じ学而館の3階では昼休みに英語のカンパゼーションサークルが開かれていて、誰でも参加して英語力を伸ばし、友人を作ることができます。また、桜美林には多くの留学生が在学していますが、留学生の日本語の授業にゲストとして参加して、彼らの日本語学習のお手伝いをするクラスゲストというシステムもあります。毎日大学に来て、空き時間にこうした

活動をしたり、時には一人で本を読んだり考えたり、これは大学時代にしか出来ない本当に贅沢な時間の使い方です。

とはいえ、入学当初は知り合いも少なく、一人で時間を過ごさなければならないことに居心地の悪さを感じる人もいるかも知れません。そんなときは図書館へ行ってみて下さい。図書館こそは人目を気にせず堂々と一人で過ごす事の出来る場所なのです。本を借りるだけでなく、図書館を探索したり勉強をしたりして、図書館を自分の居場所にする事をおすすめします。非社交的だった私も、大学時代ほぼ毎日、図書館の決まった席で予習、復習をして心おきなく過ごしていました。課題提出の必要に迫られたときだけ本を借りにゆくのではなく、新聞の書評でちょっと興味を持った本など、図書館で探してみてください。意外に柔らかい本もそろっています。書棚の前に立っていると、思いがけない本との出会いがあると思います。そして大学時代に是非いろいろな文学作品を読んでみることをおすすめします。時空を超えて作者と会話したり、一人の人間の一生では決して経験しつくせない、様々な人生を疑似体験できるのも、本の世界ならではこそです。そうして心にしみこんだ本の中の情景が、ときどき脈絡もなく心に浮かんできたりするのは人生をちょっと楽しくしてくれます。



図書館学生アルバイト座談会



桜美林大学図書館では、学生アルバイトが図書館運営の一翼を担っています。主な仕事は図書館に新しく入った、あるいは返却された本や雑誌を書架に並べたり、新聞（朝刊・夕刊）の差し替えをしたり、本を運んだり移動したりという地道な業務、図書館の使い方や本の場所がわからない学生へのアドバイス、利用案内など、いろいろな業務をこなしています。みな本が好き、図書館が好きな学生ばかりです。かれらに共通するのは、自ら学び成長したいという意欲に溢れていることです。今回はそんな図書館の学生アルバイトのみなさんに集まってもらい座談会を行いました。



みなさんが図書館アルバイトに応募したきっかけを教えてください。

◆芳賀 遥さん◆（リベラルアーツ学群2年 社会学専攻）

私は2年生の秋学期から図書館で働いています。この中ではいちばんの新人ですね。私は1年生のときに学外でアルバイトをしていましたが、学業と並行するのがとても大変でした。だから大学の中でできるアルバイトはいいなと思います。

◆今橋 沙衣さん◆（リベラルアーツ学群2年 教育学専攻）

私は2年生の春学期から働いています。図書館の閉館時間は午後9時ですが、その頃になると閉館準備に忙しく働いていらっしゃる図書館の方たちを見て働きたいなと思いました。

◆酒井 明砂子さん◆（総合文化学群3年 音楽専攻）

私は1年生の冬から図書館で働いています。図書館読書運動プロジェクトの活動をやっていて、図書館の職員の方から声をかけていただき応募しました。

◆中村 汐里さん◆（総合文化学群4年 演劇専攻）

私は4年生の春学期から働いています。以前にやっていたアルバイトがとても忙しくて、それに労働条件もきつくてなかなか休めなかったりして… そんなときe-campus（注1）に掲載されていた大学図書館のアルバイト募集を知ってすぐに応募しました。

◆佐藤 成さん◆（リベラルアーツ学群4年 環境学専攻）

僕は1年生の春からずっと働いてきました。学内で働ける仕事があるといいなと思っていて、僕もe-campusで募集の掲示をみて応募しました。

芳賀 学内でアルバイトができるのはいいですね。講義に出て課題をこなすため、アルバイトとの両立がホントに難しい。私はせっかくの大学での生活をアルバイトばかりにしたくない。大学生生活がそんなことでもいいのかな。

酒井 私も同感です。少なくともブラックバイトじゃないし。私は大学でのアルバイトは安心して働くことができます。

佐藤 ほんとにブラックバイトは多いと思います。期末試験期間であっても考慮してくれない。休みたいのに嫌な顔されたり。

芳賀 健康上の理由もなかなか認めてくれなかったりします。



今まで図書館利用者という立場だったみなさんが、図書館の一員として働いてみたら、どんなことが見えてきましたか？

中村 図書館の本がどういう規則で並べられているのかが理解できました。以前は、この本はどこに戻せばいいのかなあ、まあこの辺でいいか、なんて適当なことやっていましたね（笑）

今橋 はじめて本の番号（注2）の意味を聞いて、あれには意味があるのか！ということを知りました。しかも桜美林の図書館だけではなく、全国で共通なんだということにも驚きました。以前は、自分が興味のあるものしか見なかったのに、すごく視野が広がったと思います。

芳賀 ふだん行かないような書架の隅々まで行って作業していると、ホントにいろいろな本があって面白いんです。いま3階入口で展示している企画「魅惑のタイトル」は、書架整理をしていて思いついた企画なんです。大学図書館って難しい本だけじゃなく、いろいろな本があるんだなって感じました。

中村 ある美術展を見に行ったのですが、その時には高くても買えなかった図録が桜美林の図書館にあったんです。それを見つけたときにすごく嬉しくて！すぐに借りてじっくり読みました。

酒井 私はアルバイトとして働いているうちに視野が広がったと思います。

今橋 図書館職員さんに使い方を教えてもらったので、オンラインデータベースもよく使うようになりましたよ。自分だけ使うのはもったいないので友だちにも広めています。

中村 演劇専修に関連することと言えば、例えば教授が書いた戯曲、寺山修司、つかこうへいなど有名な作家の戯曲も読みます。また脚本や演出、舞台美術、時代考証が必要に迫られて読むこともあります。

佐藤 こんなことを言うと怒られそうですが… 図書館で働く前には、図書館の仕事ってきっとヒマなんだらうなあと思っていました。ところが実際にアルバイトで入ってみると、すごく忙しいのでびっくりしました。



図書館のアルバイトで印象に残っていることはありますか？

酒井 図書館のガイドができるようになったことかな。学生に「絵本はどこですか？」って尋ねられたのですが、たまたま場所を知っていたんです。だから地図も見ずに案内して感謝されました。

（注1）e-campus：学生はここにログインして履修登録を行ったり、シラバス、成績、掲示板を参照することができる。

（注2）NDC（日本十進分類）：広く日本の図書館で採用されている分類法。

芳賀 実は私、1年生のときに酒井先輩にガイドしてもらったことあるんですよ。

酒井 えーっ！ホント？覚えてないよー（笑）

中村 私は、意外とみんな図書館のOPAC（注3）を使わないんだなあと思った。あれ使うととても便利なのに、調べないですぐに聞いてくる人が多いと思います。

芳賀 きっとOPACの存在を知らないんですね。OPACはスマートフォンでも調べられるのに、パソコンでしか使えないって思っている学生は多いと思います。それからフロアのあちこち…閲覧席じゃなくて4階や5階の狭い部屋の奥とか書架と書架の間とかに椅子があるじゃないですか。いつも固定客がいる。

酒井 5階の隅の窓際の席は常に誰か座っている。4階の隅の椅子にも誰か座っててビックリした。

佐藤 私たちが夕刊を新聞ボックスから出すとき、ボックスの鍵を職員さんに出してもらってますよね。以前は学生アルバイトが自分で出し入れしていたんですよ。それが今の方式になったのは、たぶん僕のせいだと思います。ある時、僕が鍵をうっかり家に持ち帰ってしまったことがあって、翌日職員さんから注意された。たぶんあの時から学生アルバイトが直接鍵を出し入れするやり方が変更になったのかと思います（笑）

図書館で作業している時に学生からどんなことを尋ねられますか？

芳賀 岩波文庫の場所を聞かれました。場所が変わったせいかな？

今橋 「電波はどこ？」って聞かれました（笑） えー、電波って…？って思いましたが、きっとWi-Fiのことなんだろうなああって後で気づきました。

酒井 タイトルをメモしても請求記号が間違っていると探せない！本は請求記号で並んでいるのに。それからISBN（注4）をメモしてきてもそれじゃ探せない。

中村 請求記号の1段目（NDC分類）を書かずに2段目（著者記号）だけメモしている人がいた。それで場所を聞かれてもわからないよね。だって分類番号ないし。

酒井 これは困るというか、1階のソファで寝るのはやめてほしい。

今橋 新聞コーナーですね。でもあのソファは寝たくなくなります（笑）

中村 新聞のバックナンバーは日付順に戻して！って思うことがある。どうしてこんなところにこの日付の新聞が…って。まあきっと面倒くさいんでしょうけど（笑）

芳賀 学生の多くは購入希望（リクエスト）制度があることを知りません。必要な本が無かったら図書館が買ってくれるのに、もったいないですよ。私はリベラルアーツセミナー（リベラルアーツ学群の授業）で、購入希望制度の存在を教えてくださいました。

酒井 私は総合文化学群だったから全体のオリエンテーションしなかった。聞いていたんだろうけれど頭に入っていません。

芳賀 2年生になって大学に慣れてきてから図書館の利用ガイドンを受けるといいかもしれませんね。

中村 課題やレポートに追われているときに来るより、ヒマな時にこそ図書館に来てほしいですよ。そうすると今まで気づかなかった本が目に入ってくる。

芳賀 大学図書館には雑誌がすごく揃っている。超難しい雑誌からファッション雑誌までいろいろ。それこそ見たことない雑誌もたくさん。大学図書館の機能を学生時代に使わずに終わるなんてもったいない。

今橋 学術雑誌は超面白い。学術雑誌の存在って大学図書館ならではのと思う。科学やビジネスや、様々な分野の最先端にいる人が記事や論文を書いている。



最後に、これから大学生になる後輩たちに一言お願いします。

今橋 大学生になったら私たちといっしょに読書会しましょう！

芳賀 学生時代は自由な時間だから、何かを誰かに決めてもらうのではなく自分で決めましょう。学生時代にいろいろなことに挑戦して成長しましょう。

中村 1年生の頃に「間違ってもいいんだよ」って言われていたら、もっと楽だったと思います。私は、一から十までできなきゃいけないと思っていた。私は4年生なのでこの冊子が発行された時にはもう卒業していますが、「間違えることは、決して恥ずかしくない」と言いたいです。授業でもどンドン発言すればいい。

佐藤 学生時代にいろいろなものを見てみよう。学生時代にはいろいろなことをやってみよう。サークルでもイベントでも。僕も4年生なのでもう卒業していますが、学生時代を楽しんで過ごしてください。

酒井 あなたに何かしたいという気持ちがあったら、大学にはきっと助けてくれる人がいる。大学とはそういう場所です。行動しよう。だいじょうぶ、きっと誰かがあなたを助けてくれます。

（取材：2014年12月16日）

座談会当日参加できなかった松田さんにインタビューしました。

松田輝さん（リベラルアーツ学群3年 情報科学専攻）

サークルの先輩に図書館でのアルバイトを紹介してもらい、採用していただいて今年で2年目になります。今までは本を借りたり調べものをしたりする以外で図書館に行ったことはありませんでしたが、今では空き時間などで特に何もすることがなくてもフラッと立ち寄るようになりました。

印象に残っていること…一階の新聞置き場で作業しているときに隣の部屋の壁がいきなり動いていてめちゃくちゃ驚いたことがあります。そしてなんとその日のうちにその部屋で作業させてもらえることになり、その動く壁…電動スタックランナーという設備だと知りました。いい年して子供のように興奮しました（笑）

利用者からは、本の場所を尋ねられることが多いです。最近場所を覚えてきたので、普通ならOPAC端末まで案内するのですが、端末を使わずに案内出来たときはアルバイト冥利に尽きますね。

大学って広い割に意外と落ち着ける場所がなかったりします。居場所を探して学内をウロウロすることもあるかと思いますが、そんなときは図書館に来てください。素敵な居場所があなたを待っています。

（構成：図書館メディアセンター課長 佐々木 俊介）

学生からのメッセージ

武術と日本精神 — 図書館から得た大切なもの —

リベラルアーツ学群3年 石川 祐司

大学での研究テーマは「武術と日本精神」です。私は大学から空手道と少林寺拳法を始め、日本精神について深く学びたいと考え始めました。日本精神を深く学び、自分のルーツである、日本人とアフリカ系アメリカ人の美徳を表現したいと強く思っています。そのためには、誰よりも武術を練習し、日本精神を身につけなければなりません。

そこで私は研究の「質」を高めるために、集中して物事に取り組むように励んでいます。三到図書館は大学内の他の施設よりも集中することができ、主に、レポート作成や自身の武術ノート作成に役立っています。レポートを書く際には、必ず3階にある机やフリーアクセスパソコンを利用して作業しています。図書館で効率よく研究がはかどるのは必要な資料を簡単に検索でき、すぐ手に取ることができるからです。その結果、納得のいくレポートや武術ノートが完成できます。もちろん多くの本を借りて読んでいます。また、図書館の職員の方々と仲良くさせていただくことで、本について語る機会が多くなり、必要ときには資料探しに協力していただいています。自分に合った研究法を修得し、それらを進めるにあたって、図書館は欠かせないものだと思います。



▶2014年11月30日に行われた「第114回清武会トーナメント」中級の部で優勝！

私は三到図書館のみならず、図書館の隣の建物、図書館情報メディア室も利用しています。特に、本館のフリーアクセスパソコンが満員の際に利用しています。ここでも沢山のDVDを借りて家で鑑賞しています。図書館情報メディア室には数多くの黒澤明監督のDVDが置いてあります。私は日本精神を黒澤明監督作品から学んでいます。毎回借りては、鑑賞しながら日本精神をどう武術に役立てるのかを研究しています。

私は多くの人に、自分のテーマを持って生きて欲しいです。大学での学びは「図書館」から始まるものだと思います。自分のテーマを持って、勉強なり、研究を行ってみてください。そのとき、「図書館」が学びの助けとなります。私は「武術と日本精神」というテーマがあるからこそ、充実した毎日を送っています。図書館を利用したからこそ、多くの知識を吸収し、その知識を活かして2014年11月30日に行われた空手道の試合で優勝することができました。次はさらなる実力と知識を得て、試合に出場したいです。皆さんも三到図書館を利用して、充実した大学生活を送ってください。



▶高校時代の先生に頂いた本や、武術に役立つ本を中心に研究
▶2013年GOプログラムから書き始めた「闘魂 Fighting Spirit」(武術ノート)、ここには感じたこと、学んだことや経験したことを書いています

 学生の活動報告

相模大野図書館とのコラボ・交換展示企画

総合文化学群4年 酒井 明砂子

8月、私は相模原市立相模大野図書館で約2週間のインターンシップに参加しました。図書館に一日中いる中で、私は利用者の年齢層が気になりました。おそらく常連であろう方々はお年寄りがほとんどで、全体的にもその割合が多く、夏休みということもあって、小中学生がいる一方、私たちの世代、つまり10代後半から20代前半はあまり見当たりませんでした。大学図書館が充実しているので、大学生はそちらを利用しているのかもしれませんが、それにしても、調べ物がどの年代よりも多くなるはずの世代の図書館の利用率が低いことを私は不思議に感じました。

なぜ公立図書館を若者はあまり利用しないのか、私はそこに疑問を持ち考えたところ、大学卒業後、大学図書館の利用から公立図書館の利用へのシフトがうまくいっていないのではないかと思います。図書館離れを食い止めるには、学校と公立図書館が連携し、地域交流を図ることが必要と考え、それならば私が大学で行っている「図書館読書運動プロジェクト」が2つの懸け橋になると、交換展示を提案しました。

 桜美林大学図書館


相模大野図書館の職員さんに選んでいただいた本を紹介文、POPとともに図書館3階の入口付近に展示しました。今回は地元の図書館に目を向けてもらえることが狙いの一つなので、コラボした相模大野図書館の利用案内を設置しました。また、慣れていない図書館でも本が探しやすいよう、たいていの図書館で分類番号順に本が並べられていることを取り

上げ、分類番号の説明も加えました。さらに、本を通して誰かと交流できればと思い、本にコメントを残せるノートを挟み、「読書は一人でするもの」というイメージの払拭を目指しました。

 相模大野図書館

大学生の読書離れが話題になっているこの頃ですが、実際私たちはどんな本を読んでいる、それに対してほかの年代の方々はどのように思われているのでしょうか。このような思いから、私たち大学生がオススメする本を紹介者が作ったPOPとともに展示しました。この展示では、利用者がレスポンスできるように「イイねシール」と付箋を用意し、付箋には自由にコメントを書いて展示に貼れるようにしました。子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の方が利用することを活かし、同年代とばかり関わりがちという、大学生の問題の解決も目指しました。



今回だけでなく、定期的にコラボ企画を進めていき、学生が地元の図書館にも目を向けるようになってくれればと思います。図書館は本を読む場所だけでなく、知識を得る場にもなります。この大学図書館でも、皆さんの地元の図書館でも、図書館の職員さんはきっとあなたの調べ物のお手伝いをしてくれます。何か困ったとき、何か始めるとき、いや、何もなくても、とりあえず図書館に行ってみてはいかがでしょうか。

読書運動プロジェクト

図書館読書運動プロジェクト活動報告

2014年度の図書館読書運動プロジェクト（以下読プロ）は「いろいろな新しい活動を試みる」ということで、その活躍の場を広げていきました。

新しい活動の中で一番が入っていたのは、11月1日、2日の「学園祭出展」でしょう。メンバーはサン＝テグジュペリ『星の王子様』をモチーフとした舞台を作り上げ、体験型謎解きゲームを企画・運営しました。開催2日間で200人以上が読プロの元を訪れたとのことですので、これを読んでいらっしゃる方の中には参加された方もいるかもしれませんね。学園祭前には準備のため、かなりバタバタしており、精神的にも不安を覚えていたメンバーたちもいましたが、はじめての学園祭を無事終えたことで、皆大きな自信につながったようです。



それ以外にも、4月にはメンバー募集も兼ねた「読プロ公開ミーティング」、Webラジオなども行い、新しい試みはどんどん図書館の内外で行われていました。

その一方で、これまでの活動も継続して行っています。特筆すべきは、毎年恒例の生協読書マラソンと連動した「桜美林コメント大賞表彰式イベント」ではないでしょうか？ 企画はもちろん、イベントの運営も一からメンバーが主体となって行いますので、読プロの活動のメインイベントとなります。ところが表彰式は前述した学園祭を終えてから約3週間後。メンバーは休む間もなく、イベントの開催準備に追われていたようです。その大変さはイベントが近づくにつれ、読

プロ代表の目の下にクマとなって現れていました。

従来イベントでは作家をゲストにお招きし、作家の著書（通称「課題本」）についてトークセッションを行っていましたが、昨年度はトークセッションの時間を、作家も交えて行う「拡大読書会」^(注)に変更して実施しました。

この「拡大読書会」にお呼びしたのは、『成風堂書店事件メモシリーズ』を執筆した、大崎梢さんです。拡大読書会はメンバーが本を読んだ感想などを熱く語り、会場の意見や大崎さんの意見を交えながら進行しました。その盛況ぶりは、時折会場が大きな笑いのうずにつつまれるほどでした。



大崎先生(写真左)

ところで、この活動の広がりとともに読プロのメンバーの人数が随分増えました。さらに他大学との交流も増えました。そして取材の件数が増えました（新聞3社）。これは読プロのメンバーの本に対する熱い思い、そして何より桜美林大学読書運動プロジェクトそのものに対する熱い思いがあったからこそだと私は考えています。是非今年度も精力的に読プロのミッションである「読書を通じて楽しいこと、新しいことを大学に広める」を進めてもらいたいものです。



読プロメンバーからひとこと



ご入学おめでとうございます。これであなたも大学生です。せっかくなら充実した楽しい大学生生活を送りたいですよね？ そんなあなたにお知らせです。私たち図書館読書運動プロジェクト実行委員会は、読書をしやすい大学づくりを目指して、積極的に活動している団体です。読書会や作家さんとのトークイベント、他大学との交流、学園祭の参加など様々な活動をしています。ぜひあなたも私たちと共に充実した大学生生活を送りませんか？（リベラルアーツ学群2年 徳田 千秋）

近年大学生の読書離れが深刻だとよく耳にします。私もそんな一人になりつつありました。もっと本を読む機会を増やしたい…そんな時この「読プロ」を知りました。「読プロ」に入ってから改めて読書と向き合うようになって、読書の楽しさや奥深さを再認識出来ました。「読書＝おとなしい」というイメージを吹き飛ばすような個性的で楽しいメンバーと楽しく笑いの絶えない日々…是非一緒に活動しませんか？（リベラルアーツ学群2年 齋藤 杏実）

2014年度は、読プロ的に激動の年とも言えました。図書館の前でお菓子を食べたり（公開ミーティングです）ラジオをやったり、初の学祭出店で体験型謎解きゲーム（リ●ル脱出ゲームというやつです）を作ったりしました。あ、初めて合宿もしました。読プロは、読書とか図書館利用とかを推進する団体です。ですが堅苦しそうなる名前と目的に反して、やってることはいつも楽しいです。さあこの門を叩くがよい！（リベラルアーツ学群3年 鈴木 優花）

本を通してコミュニケーションの輪を広げてみませんか。かつて大学生であった大学教授から「大学生は知的な会話をするべきだ」と言われました。今の周りにいる大学生を見ると、やはりしているようには見えませんが、昔の大学生は確かに知的な会話をしていたようです。今の日本の政治や社会、人間はどのように生きるべきなのかということを友人同士で語る。今の言葉で言えば「ディープな話」をするということでしょうか。私はきっと本は友人とディープな話をしたいと思ったとき、私を助けてくれると思っています。自分の読んだ本について、隣にいる人に話してみる。それだけでいいと思います。読プロで本を片手にお喋りしましょう。（リベラルアーツ学群3年／読プロ代表 石川 新）

（図書館メディアセンター 鬼沢 恵子）

（注）「読書会」とは普段の読プロの活動で行われているもので、テーマとなる本を1冊選び、その内容について熱く語り合うというものです。

 退職教員からのメッセージ

桜美林大学と図書館の変遷と今後の課題

前リベラルアーツ学群教授・桜美林大学 名誉教授 石井 敏

1972年に私が桜美林大学に奉職してから、今年の3月で定年退職を迎えて、43年がたちました。私が奉職したころの桜美林大学は、文学部（英文科と中文科）と経済学部（経済学科と商学科）の2学部で、併設していた短期大学は英文科と家政科の2学科でした。大学と短大の両方を合わせた学生定員の総数は2,100名程度、専任教員数は100名程度ではなかったかと思います。その頃の桜美林大学と短期大学は極めて小規模で、ホームライク・スクールを標榜しており、学生、教員、職員が互いに顔を分かり合える家庭的な雰囲気でした。

その後、1989年に大学に国際学部国際学科を開設、1993年に大学院を開設、1997年に経済学部商学科を分離独立・拡大することにより経営政策学部ビジネスマネジメント学科を開設、2005年に総合文化学群を開設、2006年に健康福祉学群と孔子学院を開設、2007年に文学部・経済学部・国際学部を合併するとともに短大を吸収合併することによりリベラルアーツ学群を開設するなど、規模拡大に努めてきました。この間、町田キャンパスに多くの校舎を建設しただけでなく、2003年にプラネット淵野辺キャンパス（PFC）を開設、2008年に四谷キャンパスを開設するなど、キャンパスの拡充にも努めてきました。その結果、2014年度現在で桜美林大学は、リベラルアーツ学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群、芸術文化学群の4学群からなる総合大学に変身し、大学院を合わせた総学生数が8,324名、専任教員総数が368名の中規模大学になりました。

このような桜美林大学の歴史の中で、私は1996年度から2001年度までの6年間図書館長を務めさせていただきました。国際学部新設、経営政策学部新設と桜美林大学の規模拡大が始まった時期に対応して

います。三到図書館の建物は私が赴任する以前に建てられたもので、現存の校舎の中で古い建物の一つです。館長就任に際して私に与えられた課題は、収容能力を超えた蔵書をいかに保管・管理するかという問題と、IT化時代に図書館をどのように対応させるかという問題でした。蔵書管理の問題は、全学教員の協力を得て図書を選別し、比較的使用頻度が少ないと思われる図書を学外に別置・保管するというで解決しました。IT化への対応に関しては、図書検索システムを中央集中処理型からパソコンネットワークによる分散処理化を進めるとともに、図書館を学外のネットワークに接続しました。もう一つ私が努力したことは、図書館の専門職員を育成し、レファレンス業務の充実を図ることでした。6年間という長期にわたり館長として在職し、以上述べた課題にいささかなりとも貢献できたのではないかと考えています。

IT化は現在も猛烈な勢いで進展しています。このようなIT化のもとで、大学図書館はどのような役割を果たさなければならないかが改めて問われています。全世界的な情報ネットワークを駆使して、教育と研究にいかに関与するかを考えなければならないのだと思います。



図書館ガイダンスの報告とご案内

LAGO プログラム 図書館ガイダンス報告



桜美林大学にはさまざまな留学プログラムがありますが、その中でリベラルアーツ（LA）学群の学生が語学研修として参加できるGlobal Outreach Program 通称「LAGOプログラム」があります。このプログラムの事前学習の中で図書館は留学前の準備や、語学力の向上のためにどのように図書館を活用すべきかを説明しています。私自身、帰国子女として初めて日本に来て、知らない言葉や文化に直面した時の体験談や、語学を身につけるためのヒントなどを交えながら話をしました。



海外留学となると多くの手続きや準備が必要になり、結構忙しいものです。留学を目の前にして自分の語学力や日本についての知識のなさに焦りを感じる学生も少なくないでしょう。留学したいと考えているのであれば、是非図書館の本、雑誌、新聞、DVD、データベースなどさまざまツールを使って情報を集め、計画的に準備を進めてほしいと思います。また、留学から戻ってきたら、今度はせっかく身に付けた語学力を落としては意味がありません。さらに磨きをかけるべく、多くのツールを活用しながら、勉強を進めてほしいと思います。



このガイダンスの後で多くの学生が図書館の「留学コーナー」で本を探している姿がありました。また、どうしたらより効率よく語学を身につけることができるのかという相談にくる学生もいました。いつでも喜んでお手伝いしますので気軽に声をかけてください。図書館を是非、自分の生活の中に取り入れて、思う存分活用してください。

(図書館メディアセンター 糸数ナンシー美香)

文献探索セミナー

図書館では個人申込みによるガイダンス「文献探索セミナー」を春学期と秋学期の2週間実施しています。

あなたの必要なテーマにあわせて文献の探し方やツールをご案内します。授業で図書館ガイダンスを受けなかった方、受けたけれどもっとレベルの高いガイダンスを希望する方など、友だちと一緒に受けてみませんか？ 詳細は図書館ホームページでお知らせします。

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>図書館探検 図書館ツアーコース</p> <p>▶館内ツアーを体験しながら、図書館の資料と利用方法がわかるようになります。</p> <p>所要時間 40分</p> | <p>本を探そう OPAC 検索コース</p> <p>▶蔵書検索（OPAC）での本の検索方法と、書架での探し方がわかるようになります。</p> <p>所要時間 40分</p> | <p>新聞記事を探そう 新聞記事検索コース</p> <p>▶新聞記事のデータベースで記事を探せるようになります。</p> <p>所要時間 40分</p> | <p>論文を探そう 雑誌論文検索コース</p> <p>▶雑誌論文のデータベースで論文の探し方がわかるようになります。</p> <p>▶他の図書館の利用方法等も案内します。</p> <p>所要時間 40分</p> |
|---|---|--|---|

編集後記

キャンパスを歩いているとあちこちで学生たちの会話が耳に入る。たわいもない会話、真剣な会話、キャンパスが活気づいているのはよいことだ。しかし毎年気になるのが、自分たちを「生徒」と呼ぶ学生たちのこと。まだ幼さの残る1年生が言うならまだしも、3年生、4年生にもなってまだ自分たちを「生徒」と公言する学生たちも少なくない▶辞書で「生徒」「学生」という言葉を引いてみると、【生徒】学校などで教育を受けるもの。特に、中等学校（中学校・高等学校）で教育を受ける者。小学校は児童、大学は学生という（『広辞苑』第6版）、【学生】学問をしている人。特に、大学生（『大辞泉』）となっている。その他の辞典の語釈も基本は同じ▶新入生に配られた『2015学生生活ガイド』を開いてみてほしい。ここには「生徒」なる単語は出てこない。つまり大学で学ぶものは「生徒」ではないのである。願わくはこの『三到図書館ニュース』を読んだ新入生のみなさんは、「私は今日から『学生』です」と公言してほしい。(S)